

静岡徳洲会病院総合診療科専門研修プログラム

～かかりつけとしての都市型総合診療

1 はじめに

わが国の医療はこれまで各診療科の専門家による疾病中心の医療と、いわゆるかかりつけ医として患者中心で提供する医療により支えられてきましたが、これまではかかりつけ医として患者及びその家族を支える医師は、専門性をもつ専門家としては認められてきませんでした。

しかしながらこれからは少子高齢化が進む中、専門性と費用対効果及び効率化が求められるのは財政が限られた我が国では当然のことと考えます。そんな状況の中で、総合診療科はこれからの我が国の医療を支える重要な基本診療科になると考えています。

各診療科の専門家と協力しつつ疾患の治療、予防から介護の問題まで患者さんの抱える様々な健康問題を扱う総合診療科は地域の要たる診療科です。総合診療科の扱う健康問題は医師だけで解決できない多くの要素が絡んでおり、地域の医療資源を利用しつつ他職種の協力を得ながら患者さんとともに地域で歩いていく事になり、それこそが総合診療科の専門性と考えます。静岡徳洲会病院はこの地域に貢献するために存在しています。そして当院の総合診療科はこの地域の健康に貢献する“かかりつけとしての総合診療科医師”の育成を目指しています。



プログラム統括責任者
静岡徳洲会病院
院長 山之上弘樹

2 目的

総合診療科は、総合内科と強く連携をとり内科系入院は原則すべて総合診療科とともに担当しています。また、救急、小児科研修は24時間年中無休の救急外来診療を中心とした院内での継続的な研修とともに、近隣の医療施設と提携し集中的な研修を受けることで、様々な疾患とともに施設間での連携についても学ぶことができます。さらに徳洲会グループのスケールメリットを生かし、離島、僻地での診療を経験することで自立した総合診療科医としての実力を高めることができます。

指導医は総合内科専門医、病院総合診療指導医、日本プライマリー・ケア学会認定指導医を併せ持ち、救急における初期診療から病棟管理、さらには在宅、施設への訪問診療にいたるまで一貫しての指導・診療を行える体制をとっています。また幅広い臨床経験をもつ指導医のもとで、症例報告や臨床研究の実践を目指します。

私たちは、地域に対しシームレスな医療を提供することは都市部の病院における総合診療の役割と考えています。各領域の専門家と連携しつつ、急性期から慢性期まで様々な場での経験を積みながら患者さんとともに歩む総合診療医の育成を行います。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設

静岡徳洲会病院（静岡県静岡市）

(2) 専門研修連携施設

静岡済生会総合病院（静岡県静岡市）

笠利病院（鹿児島県奄美市）

佐久間病院（静岡県浜松市）

4 専攻医受入数

2名

5 研修期間

3年

6 研修計画

静岡徳洲会病院総合診療科専門研修プログラムは、静岡徳洲会病院を基幹病院とし地域の連携病院及び徳洲会グループの僻地・離島病院と施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設をローテートすることで総合診療科医師に求められる様々な知識、経験を積むことが可能となります。ローテート研修は以下のとおりです。

総合診療専門研修については静岡徳洲会病院で総合診療専門研修Ⅱを6カ月、笠利病院と佐久間病院において総合診療専門研修Ⅰを6カ月ずつの合計18カ月の研修を行います。

必須領域別研修として静岡徳洲会病院で内科12カ月、小児科、救急科を静岡済生会総合病院で3ヶ月ずつ研修を行います。

静岡徳洲会病院での総合診療Ⅱの期間中は、同院の耳鼻咽喉科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、婦人科などと連携し各研修を行うことが可能です。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医を中心に考え、個々の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、プログラム責任者が決定します。

7 問い合わせ先

臨床研修事務局

電話 054-256-8008

メールアドレス kenshu-shizuoka@tokushukai.jp